

もくじ

- ・ まのいいりょうし

まのいいりょうし

げんさく 原作：にほん 日本むかしばなしの昔話

イラスト： kitamaki

へんしゅう 編集： YellowBirdProject

むかしむかし、ある^{むら}村に、どんべえさんという
猟師^{りょうし}の男^{おとこ}が住^すんでいました。

どんべえさんは毎日^{まいにち}鉄砲^{てっぽう}を持^もって、山^{やま}へ狩^かりに
出^でかけていました。しかしこのどんべえさん、鉄砲^{てっぽう}の
腕^{うで}はいまいちで、ろくに獲物^{えもの}に当^あたったためしが
ありません。

その日^ひ、どんべえさんは木^きの枝^{えだ}に大^{おお}きな鳥^{とり}が
とま^みっているのを見^みつけました。

「おお、今日^{きょう}はまたずいぶん^{はや}と早^{えもの}く獲物^でに出^あ会^あえた
な。なんとまあ、まがいいんだろう」

どんべえさんは鳥^{とり}にねらい^{さだ}いを定^さめて、ドンと撃^うち
ました。



さて、鉄砲から出た弾が、どこをどう飛んだかという、鳥のとまっていた木の枝を通り抜けて、あっちの木、こっちの木とはね返り、しまいには草むらで昼寝をしていたイノシシのお尻に当たりました。イノシシはカンカンに怒り、どんべえさんめがけて突っ込んできました。

「ひえ～、お助け～！」

どんべえさんは必死に走って、目の前にあった高い木に登りました。イノシシは、どんべえさんの登った木の根元にそのままぶつかって、気を失ってしまいました。

「あれまあ、鳥を撃ったら、イノシシが捕まったぞ。こりゃまた、なんとまがいいんだろう」

